

国際光年シンポジウム

目に見えない世界を感じる

～宇宙の写真モチーフにした作品展示について～

須藤美沙

1. 活動歴

作品を個展やグループ展に出品しながら制作活動を続けており、現在、埼玉県蕨高等学校教諭です。

近年の主な展覧会はTWS-Emerging 2015【第3期】「フォールスカラー[1]」（TWS渋谷、2015）、シブヤのタマゴさよなら区庁舎（渋谷区総合庁舎、2015）トーキョーワンダーウォール公募2014入選作品展（東京都現代美術館、2014）、ワンダーシード2014（TWS渋谷、2014）などです。

作家ホームページ<http://www.misasudo.com>

2. 制作の動機と作品について

私は宇宙に興味があり、NASAのハッブル等の宇宙望遠鏡が撮影した色鮮やかな写真を見るのが好きです。

こんなカラフルで美しい世界が本当にあるのだと信じていましたが、実はそうではないことを数年前にはっきりと認識しました。この宇宙の写真の中には目に見える光だけでなく、目に見えないもの、赤外線や紫外線等の光が研究者の手によって着色され、あたかも事実のように映し出されています。

私はこの過程に着目したことから『目に見える世界だけが唯一の真実ではない』ということについて考えながら作品を制作しています。

カラー写真の色には写っているものが真実であると思込ませてしまう力があると思ひ、色彩情報を無くすことによって一般に刷り込まれたイメージとは異なる印象に、作品を仕上げています。

3. 立体作品の制作方法と制作意図

ハッブルが撮影した写真をもとに、紙にブッシュピンで穴をあけて描いた作品（図1、2）。紙に穴をあけてその裏から光を通すと、表には星や星雲が輝き画像が見えます。作品の表側だけでなく裏側の見えない面について意識させ、見えないものについても考えることのできる作品にしたいと思っています。

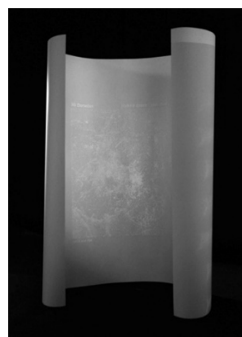


図1 30 Doradus 2014 紙 109×140cm



図2 作品裏

4. 宇宙をテーマにした展覧会

2015年7月4日(土)から8月2日(日)まで、トーキョーワンダーサイト渋谷にて、TWS-Emerging2015 第3期の作家に選出され、須藤美沙個展「フォールスカラー」を開催しました（図3）。

ハッブル宇宙望遠鏡を鉛筆で描いた絵を黒塗りした壁に掛けて、ハッブルが広い宇宙空

間にボカンと浮かぶ印象に仕上げました（図4）。天井からは、私たちの住む天の川銀河を白と黒のケント紙に穴をあけて描いた作品を吊るしました。賞者の方々には、遙か彼方の宇宙や目に見えないものについて考えたり、ものの見方のズレを感じられる空間にしたいと考えました。



図3 ◎ Tokyo Wonder Site

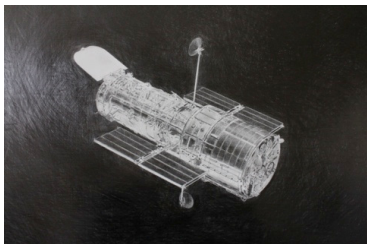


図4 Hubble Telescope (作品部分)
2014 鉛筆、パネル 91×116.7cm

5. 目に見えない世界

～宇宙と作品について語る～

会期中の8月1日（土）に、国立天文台チリ観測所助教、教育広報主任である平松正顕氏と対談しました（図5）。平松氏が専門的に研究されている電波天文学やアルマ望遠鏡についてお話を伺いながら、宇宙の写真と展示作品の関係について語りました。

天文学の研究者が宇宙の写真を作成する際、「自分の研究に応じて必要なデータを選ぶ」「どのデータを選んで重ね合わせるかは美的センスによるもの」「宇宙の暗い所に新たな発見や可能性がある」「電波によって見えなかったものが見え、違う側面が見えてくる」「いかに先入観を排除して画像と向き合うかが課題である」等、天文学者の視点、研究に対する

情熱や姿勢を知ることができました。私がモチーフとして宇宙写真を選ぶ際にも、作者の見方や美意識が作品に大きく反映しているということを再確認しました。どのように宇宙写真と向き合うべきかを考える良い機会となりました。



図5 ◎ Tokyo Wonder Site

6. 今後の展望

SPACE TRIP（宇宙旅行）を特集した架空の本をモチーフにした作品を制作しています（図6）。これからも変化し続ける宇宙研究に関心を持ちながら制作していきたいと思えます。



図6 Book (SPACE TRIP)
2015 classico tracing paper 29.7×46.0cm

[1] 実際の色とはかけ離れた色合いで表現した画像のこと。



須藤 美沙